

CSI

Csi Journal Topics!!

安藤理事長 × 大室センター長 対談

CSIの様々な活動紹介

進行中のプロジェクト紹介 地域コーディネーター活動紹介

JOURNAL



ワクワク、ここから新しいことがはじまる。



WHAT IS CSI??

持続可能な 社会の実現を 目指して

2018年4月、長野県立大学の開学と同時に立ち上がった「ソーシャル・イノベーション創出センター(Center for Social Innovation Initiatives, CSI)」は、「社会課題を生まない」「社会課題を解決する」ことに理念を持つ方が一歩を踏み出せるエコシステムを醸成し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

社会の新しい変化 ソーシャル・ イノベーションを促進

大学内外の多様な人や知的資源、地域や企業など、多様な人々が絡み合う「オープン・イノベーション」を基本とし、社会の新しい変化「ソーシャル・イノベーション」を促進します。県内外のイノベーターやプロフェッショナルと、学生や教員、企業、行政機関、地域などを相互に結び、社会的課題を解決するための新しい仕組みやサービス、商品などの開発を促進します。



大学教育との連携

地域の企業へ学生を派遣、社会人の大学へのアクセスを促進し、大学の知を地域に還元

知と実践の循環

社会的課題に取り組む事業者・創業者等を支援

地域におけるイノベーションの実像をロールモデルとして学生に提示し、次世代のイノベーターを養成



社会課題解決に向けてのコーディネート

社会課題解決に向けて多くの皆さんの相談に応じます。

各地域に常駐する地域コーディネーターを相談窓口に、大学やアドバイザー・メンバー、事業者、行政機関などとの接点を見つけ、CSIは黒子役として、皆さんを結び付けるコーディネートを行います。

地域コーディネーター（2018年度）

県内の各地域で活躍する地域コーディネーターが、事業者や企業、自治体や地域とCSIを結びます。

瀧内 貫（北信・中信） 大宮 透（北信・中信）

石田 諒（東信） 森本 ひとみ（南信）



アドバイザー・メンバー

県内外の社会起業家、専門家にアドバイザー・メンバー(adv.m)を委嘱しています。CSIは社会課題解決に向けて事業者や企業、自治体とadv.mをつなぎます。

秋山 怜史	一級建築士事務所 秋山立花 代表(横浜市、京都市) 母子居住支援、建築	田中 慎	田中経営会計事務所代表(大阪市) 税理士、中小企業診断士、京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)イノベーション・コーディネーター
井上 英之	慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科 特別招聘准教授(東京都) ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京 ファウンダー	成澤 俊輔	NPO法人FDA 理事長(川崎市) 障がい者支援、社会的弱者への就労環境提供
井上 有紀	INNO-Lab International 共同代表(東京都) 慶応義塾大学SFC研究所 上席所員	西村 勇哉	NPO法人ミラツク 代表理事、理化学研究所未来戦略室 イノベーションデザイナー(京都市、東京都) 未来潮流を捉えた戦略・事業開発、未来共創のためのマイクロ視点調査等
岡 勇樹	NPO法人Ubdobe(ウブドベ) 代表理事(東京都) 医療福祉エンターテインメント	ホチエ 真吾	Impact HUB Tokyo(株式会社 Hub Tokyo) 共同創業者&取締役(東京都、長野県) 社会にインパクトを生み出すコミュニティづくり
鬼丸 昌也	認定NPO法人テラルネッサンス 創設者・理事(京都市) 海外紛争被害者支援	前田 展広	前田展広事務所 代表(京都市) プロジェクトマネジャー、京都市ソーシャルプロダクトMAP編集長
川添 高志	ケアプロ株式会社 代表取締役(東京都) 革新的ヘルスケアサービスのプロデュース	三木 康司	株式会社 enmono(エンモノ)代表取締役(神奈川県) マイクロモノづくり
熊野 英介	アマタホールディングス株式会社代表取締役会長兼社長(京都市) 持続可能社会を目指す未来デザイン	村上 草太	株式会社 X United Branding & Communication Center リーダー(大阪市) IoT導入支援、ハッカソン等によるコレクティブ・インパクトの実践、IoT人材育成
齋藤 幸一	有限会社アップライジング 代表取締役社長(宇都宮市) 就労困難者の雇用	桃原 祥文	株式会社九電ビジネスフロント部長(福岡県) 健康マネジメント
桜井 尚典	一般社団法人リリース 共同代表(京都市) 実践ビジネス講座、地域活性化	由井 真波	有限会社リンク・コミュニティデザイン研究所 代表(京都市) コミュニティ・デザイン
高津 玉枝	株式会社福市 代表取締役(大阪市) フェアトレード、イノベーション・キュレーター	渡邊 さやか	一般社団法人 re:terra 代表理事(東京都) 女性企業家支援
但馬 武	home 代表(横浜市) ビジネス・コミュニティ・デザイナー、 社会起業家のコミュニティづくり支援		

(2019年3月現在、五十音順、敬称略)

長野の未来を描く イノベーターとして、 今、芽吹き始めた ソーシャル・イノベーション創出センター

撮影協力：銀座 NAGANO

地域と人とを結び、未来を描いていく。

ソーシャル・イノベーション創出センターは大学内外の多様な人と知的資源を結びつけ、社会課題解決のエコシステムを醸成することを目的として2018年4月、長野県立大学内に創設されました。ソーシャル・イノベーションを軸とした組織は国内大学で初。長野県立大学の安藤国威理事長とソーシャル・イノベーション創出センターの大室悦賀センター長が1年間の歩みを振り返ります。

長野県立大学
理事長
安藤国威

ソーシャル・イノベーション創出センター
センター長
大室悦賀

相談件数延べ400件超 種を蒔きつづけた1年目

一長野県立大学ソーシャル・イノベーション創出センター（以下「CSI」）がオープンして、1年が経とうとしています。この1年を振り返って率直な感想をお聞かせください。

大室 種は蒔けている実感があります。行政や企業と本学との間で包括連携協定を結んだり、「ソーシャル・イノベーション塾」を開催したり、企業・地域からの相談件数が延べ400件を超えていたり……。地域や企業と本学をつなぐ地域コーディネーターや、県内外の社会起業家、専門家に委嘱したアドバイザー・メンバーが中心となって、地域の事業者、創業者の良さを活かそうと動いています。

安藤 異なる視点やバックグラウンドを持つ人がCSIに集まり、刺激を与えあって、長野に大きな変化を作っていくようにしていますね。正直、過去からの延長線でやっても長野の未来は変わらない。県外から人を呼び、豊かな自然や人材というリソースに刺激を与え、発芽させていくことが大事です。CSIはまさにその触媒になれる存在だと感じています。

大室 触媒として長野に新たな意味付けをしていきたいです。たとえば今、長野県の飯山市に注目しています。住んでいる人はみんな「雪が多くて困る」と仰っていますが、飯山は小説の舞台や映画のロケ場所として使われることがすごく多いんです。つまり見る人が見れば素敵なロケーションなんですよ。

安藤 うんうん。

大室 地域に新たな意味を見つけ、魅力を育てることで、どこかのコピーではなくオリジナルな場所になっていきます。その未来を描き、見せていくのがCSIの役割だと感じます。

一学生とのかかわりについてはどのように考えていますか？

大室 もっとプロジェクトに学生を巻き込む仕組みを作りたいです。リアルな社会課題があって、解決のために大人たちが時には葛藤し、物事を進めていく。プログラムとしてではなく、リアルな空間として参加できるのはCSIだけです。そうそう今度、アパレル業界の光と闇をテーマとした映画を紹介したことがきっかけで学生たちが古着店を始めるんです。

安藤 ほう、すごいですね。

大室 ただの古着店ではなく、ドネーション古着と言っていて、着ていないけれど思い入れがある服をお預かりして、その服に込められたストーリーと一緒に寄付してもらおうそうです。信濃毎日新聞で紹介されて、記事を読んだ方が「古着を送りたい」って事務局に電話してきてくれたりもしています。

安藤 大学の取り組みに地域の人が反応して、新しいつながりがうまれていく……。まさに「地域に開かれた大学」ですね。素晴らしいです。



挑戦+広い視野=価値あるイノベーションになる

—安藤理事長はソニーでパソコン「VAIO」や携帯電話の事業化など数多くのイノベーションを起こしてきた方ですが、イノベーションに必要な条件って何でしょう？

安藤 イノベーションとは今までと全く違う手法で、新しい価値を提供し、世界を変えていくこと。どんな企業でもイノベーションがないとすぐ衰退していきます。じゃあどうやって起こすのか。その一要素として失敗に寛容であること。1000回挑戦してようやく1個のイノベーションが生まれることだってあります。だから長野県立大学もCSIも常にトライし、エラーしたとしても次に活かす文化を作りたい。

大室 あと、イノベーションには周りを見る視点も大事だと感じます。長野の企業の方と話していると、脳目もふらず専門分野を見ている人が多い気がして。でも専門性だけ突き詰めてもイノベーションって生まれないんですよね。穴は穴の周辺も掘ることで深さが出てくるのと同じで、専門分野ではない未知の世界も学ぶことが本当のイノベーションにつながります。

安藤 自分の領域にとじこもっていると社会から取り残されてしまいますよね。たとえばペットボトルメーカーが新技術を開発しても、そもそも「プラスチックゴミを減らす」という時代の流れを知っておかないと、イノベーションの意義が薄れてしまいます。世界の動きを見わらすことで、価値あるイノベーションが生まれていくと思います。

大室 ちなみにアメリカではSTEAM人材が話題になっています。STEAM人材とは「科学 (Science)」「技術 (Technology)」「工学 (Engineering)」「芸術 (Art)」「数学 (Mathematics)」を意味する英単語の頭文字を集めた造語で、イノベーターには5つの要素が必要だということ。CSIもSTEAM人材を作っていくことがポイントだと感じています。



地域と人を結び、未来を描き、文化を紡いでいく

—最後にこれからどんなCSIにしていきたいか、お二人の意気込みをお聞かせください。

大室 取り組みの幅を広げていきたいです。移住者が活躍できる場を作ったり、県外からプロフェッショナルを呼んで創業支援塾を開いてもらったり。

安藤 1年目で蒔いた種を発芽させ、実を収穫していけると良いですね。

大室 具体的には7月に「ソーシャル・イノベーション・サミット (仮称)」というイベントを開催します。僕、長野の行政と企業間にすごく距離があると思っていて。長野が抱える課題を解決するソリューションを持っている企業を全国からお呼びして、行政と企業をつなげる土俵作りをしたいです。

安藤 接点を作るんですね。

大室 民間も行政も地域も手を取り合って社会を面白くしていきたいです。たとえば“かんでんばば”で有名な伊那食品工業は知っているも、どんなビジネスモデルで48年間増収・増益を達成したかは知らない人が多い。それはもったいないですから。

安藤 たしかに。

大室 1年やってみて、CSIは地域の未来を描くのが役割だと実感しています。未来を作るのはそこに住む人や企業。だからCSIは「これができたらワクワクする!」という未来予想図を描き、実際に取り組んでいる人を呼んで見せちゃう。そうすれば「面白そうだからやってみよう」と地域で、

長野県民はおとなしい?

イノベーションを生むには自分ごと化がカギ

—先程、イノベーションには挑戦が必要だと話されていました。では長野で挑戦する人を増やすにはどうすれば良いでしょうか?

大室 京都から長野に来て思ったのは、京都は一人ひとりの個性が強烈にあるけれど、長野はどこか同質性が強いように感じます。

安藤 個を出すことを遠慮する人が多いかもしれませんね。それが長野の良い所でもあるけれど、チャレンジする時は自分を出さないといけない場面が多々あります。

大室 「こういう人間だからこれがしたい!」という“自己”を持つことが大事ですよ。だからまずは自分と向き合う。自分は何が好きで、何がしたいか、考え抜くことで自分の軸が見つけれられると思います。そうすれば自然と歩みを進めていけるのではないのでしょうか。

安藤 挑戦が楽しいと思える場面を作ることも大切ですね。

大室 新たな取り組みに挑戦することが、自分たちの仕事や暮らしをどれだけ良くするかを伝えたいです。最近、地域のおばあちゃんに「お孫さんが帰りたいと思える場所にしたいですか?」って聞いているんです。すると皆さん「したい!」って。「じゃあそのために何をするか一緒に考えましょう」と話すと、一気に地域の課題を自分ごととして考えてくれるようになりました。

安藤 わははは、大室さんはうまいなあ。僕も孫のことを言われたら弱いから(笑)

大室 あと逆説的ですけど、どうなるか分からない状況すら楽しめるようになると強いです。

安藤 たしかに。僕も何かを始める時は必ず「結果がどうなるのかイメージできない」と言われてきました。でも、それでいい。分からないから面白い。たとえば、いきなりアメリカ出張を命じられたとしても「何ができるか分からないが、何か変わりそう。とりあえず行ってみよう!」みたいに曖昧さを楽しむというか(笑)

大室 曖昧な部分を楽しめることが人生においてどんなに面白いことか。学生にもそれは知ってほしいなあ。曖昧な状況を楽しめれば、挑戦するハードルもぐっと下がりますから。

小さな変化が起き、いつか大きな潮流…ソーシャル・イノベーションにつながるはず。『挑戦すれば長野はもっと面白くなる』という姿勢を見せていきたいです。

安藤 大学経営の視点から僕は“長野県立大学”の個性を大事にしていきたい。その象徴としてCSIに期待しています。将来、CSIの取り組みから日本のリーダーになる学生が出てきて、長野県立大学が日本全体の変化を促す触媒になるのも夢ではありません。

大室 そうなったら最高ですね。

安藤 となるとこれからCSIが果たすべき役割は非常に大きいですよ。日本中からいろいろな人を呼び、地域や学生とつなげて、長野に新しい変化を生み出していく。CSIがその核となり、大室さんをはじめ多様な価値観を持った人々が中心となって文化を作っていくことでしょう。まさに今、芽吹きはじめたCSIが描く未来を僕は本当に楽しみにしています。





信州ソーシャル・イノベーション塾がスタートしました。望まれる人材の姿は「俯瞰して情報を拾い上げ、新たな未来をつくるための価値観を創出してビジネスに実装する」。自ら課題意識を持ち、新しい時代に適応するために成長し行動する意思のある方が、県内外から多数応募頂き、塾生として、各自が行動していく「マイプロジェクト」を中心にハードな研鑽を重ねました。

塾長：秋葉チーフ・キュレーター

講師陣：池内計司氏 (IKEUCHI ORGANIC株式会社)
由井真波氏 (リンク・コミュニティデザイン研究所)
井上英之氏 (一般社団法人 INNO-Lab International 共同代表)
大室センター長

開催：2018年11月10日～2019年3月2日 (全6回)
+オプションミーティングなど7回

📣 塾生の声

自分の負の感情にも共感し、掘り下げていくと他人や世界に繋がっていくという視点を得た (士業)

誰かのマイプロジェクトは自分のマイプロジェクトに繋がっていることを発見した (自営業)

普段出会わない業種の方々とディスカッションが興味深い (非営利組織)

所属組織の枠にはめて考える癖が抜けにくいことに気づいた (金融機関)

感覚や感性がいかにか大事か、そこから生まれるものの大きさを価値発見した (企業人)

内観することの大切さを発見した (自営業)

自分がすべきプロジェクトの真価に気づいた (経営支援組織)

未来を見据えて語ってきた夢やモヤモヤに方法論を与えてもらった (企業人)

学生スタッフから、自分のマイプロジェクトに関わりたと言われていたことが自信 (金融機関)



保健医療福祉専門職を対象とした起業塾を、日本開業保健師協会長野研究会との共催で開催しました。起業に向けた1日かかり全3回の塾に、県内外から専門職の熱い塾生達が参加しました。

📣 塾生の声

自身と向き合い、成長出来た素晴らしい機会になりました。自分の思い描く未来像が明確になり、自分の将来にワクワクしています。塾生お互いがお互いの未来像のファンになり、今後もつながり、励まし合える仲間になれました。

塾ではドブプリと自己の探究に明け暮れる思考が身に付きました。塾で見いだした自己の資産が、どんな形で社会に貢献できるか、社会性の重要性を再認識しました。「バックキャスト」は起業する上ではなくてはならない思考だと実感しました。塾を通じて、起業に必要な考え方の基礎を学びました。この基礎がなければ未来は描けません。

大変濃厚でした。思考の癖に気づき、仲間がキラキラした目で未来や自分の事業を語っている姿を見て前向きな気持ちになれました。虫の目になりがちな専門職が、俯瞰しながら仕事をする知識や考え方も学べました。仲間たちの熱意を感じながら、これからの自分の人生をより自分らしいものにしていきたいと思っています。

「楽しかった」。なんで楽しかったのだろうか？ 私なりの答えは「未来を語っている」から。目をキラキラさせて未来を語り、それを見るこちらもワクワク楽しくなってきます。自分と向き合い、自分と語り合った数カ月間でした。未来を自分事にする、という壁も、これらの全てが、糧となった起業塾でした。

/ 開業保健師のつどい

日本開業保健師協会長野研究会代表 三井洋子さん

2018年11月、日本開業保健師協会とCSIの共催で「開業保健師のつどい」を開催し、22名 (理事5名含む) の参加者で、ぜいたくで濃厚な時間を過ごしました。大室センター長の講義と秋葉チーフ・キュレーターの「LECTURE&WORK」。大室センター長の講義は45分に45枚のスライドで、何回も聞いているメンバーでもかなりしんどい。はじめて聞いた人たちの頭には「???」マークがいっぱい。今までの考え方と異なる頭の使い方を示唆され、目の前の課題を解決するために活動したい保健師たちが動き出しています。ここから刺激を受け、専門職向け起業塾生や開業保健師長野研究会メンバーに新たな仲間が加わって、12月から毎月集まり情報交換が始まっています。



いいやま 女性起業塾



「いいやま女性起業塾」は、飯山市が主催、秋葉チーフ・キュレーターが講師を務めた飯山市初の“女性限定”の起業塾です。

自分の得意なことを生かしたスモールビジネス（小商い）実現のために、徹底的に「マイ事業」を磨きあげます。叶えたいのは「どんな未来を実現したいか」。自分らしいライフスタイルの実現を目的とした新しい形の起業塾です。

塾生の声

すごく充実したひと時でした。私の今後の事業展開は夢が目標へと変わり、現実になるようにしています。家族、友人、信頼できる人、プロにやりたいことを話し、ご縁の種まきをして、マイ事業が、自分らしく生きられる生活の一部となるよう進めていきたいです。

長野県企画振興部主催の2018年度の地域おこし協力隊の研修講師を秋葉チーフ・キュレーターがお引き受けしました。北海道に次ぐ全国第二位の大人気の長野県。研修には県内15市町村から30名が参加され、起業に向けたさまざまなワークを行い、会場は熱気にあふれました。「『SDGsの活用』『21世紀型起業へのステップ図』は壁に貼っています」という声も頂きました。

参加者の声

地域おこし協力隊になるまで起業を全く考えたことはなかったので、とても勉強になった。

マインドセットは自分の活動の見直しの機会になり、大変有意義だった。

小さなコミュニティにいると視野が狭くなりがちだが、日本や世界の動向も含めて視野を広げていけば良いと分かった。

地域おこし協力隊 スキルアップ研修



地域の課題をビジネスに変える 学生起業家育成セミナー



長野地域振興局のご依頼で、大学生・高校生・高専生向けの学生起業家育成セミナーを実施しました。新しいビジネスの考え方レクチャー、自分の好きや得意からビジネスアイデアを発想するワーク、そして2日目には街歩きから五感をフルに使って地域をヒントにビジネスアイデアを創出する濃密なワーク。参加者の積極性もあり、クリエイティビティが大いに刺激され、たくさんのアイデアが誕生する稀有なセミナーとなりました。

参加者の声

この経験は人生の宝物、きっと忘れない。

何を言っても否定されなかったのが嬉しかった。

(講師：秋葉チーフ・キュレーター、adv.m由井真波氏)

長野市職員研修所 小池啓道さん

「夜間講座」は長野市役所の自主研修会です。本年度から市職員以外にも聴講の幅を広げ、学生も参加しています。

2018年10月の講座では約20名が参加し、CSIの川地スタッフを講師に招き「モチベーションを維持する、高める条件とは」というテーマで、ご当地映画制作の経験から、人の巻き込み方、参加者のモチベーション、自分自身の心の動きなどお話いただきました。

受講者からは、モチベーションアップを職場でも実践したい、自分も自分らしく主体性をもって行動したい等の感想が寄せられ、有意義な機会に更に県立大との連携に期待が高まりました。

長野市役所夜間講座



長野市役所職員研修 大室センター長講演



長野市と大学との包括連携協定に先立ち、長野市の行政職員や地域組織に関わる市民を対象に、大室センター長が「ソーシャル・イノベーション 地域を元気にするもう一つの方法」と題して講演しました。市役所講堂が満員となる100名を超える参加者に、90分間、最新の世界動向や国内先進事例も交えつつ、ソーシャル・イノベーションの考え方を伝えました。会場からは、具体的な取り組みへの質問もあり、新しい風を感じる半日となりました。

地域に飛び出す 職員支援研修



長野県では、公務員の地域活動の実例等や職務以外の場で培われる「学び」を通じ、職員自身が地域活動やその支援について考え、行政サービスの向上につなげていくため「地域に飛び出す職員支援研修」を実施しています。2018年度は、企画から当日の運営まで長野県立大学ソーシャル・イノベーション創出センター協力のもと、実施しました。この研修は、ゲストの講義やアドバイス、ワークショップを通じて、地域に飛び出すモチベーションを高め、その第一歩を踏み出す後押しをすることが目標でした。参加者の皆さんからは、「貴重なお話を聞くことができて良かった」、「地域活動の意欲が高まった」など前向きな感想をたくさんいただき、地域でアクションを起こす公務員が一人でも多く現れることに期待が持てる研修となりました。

2018年9月、飯山市と公立大学法人長野県立大学は包括連携協定を結びました。この協定を機に始まった「飯山Good Business Meeting (飯山GBM)」飯山市で活躍される事業者の皆さんやこれから事業を始めようとする方々が、ご自身のビジネスや取組を改めて再定義し、ともに生きる飯山で「Good Business」のコミュニティづくりをしようという取組です。CSI adv.mの桜井肖典さん、但馬武さん、風間美穂さんのリードのもと、既存の枠組みを外して別の視座から事業を見つめなおすことを行っています。2018年度は、「歴史」「地球」「クリエイティビティ」の3つの視座を提供。大きな視座から俯瞰することで「飯山でビジネスをする意義」「ビジネスで飯山に貢献できる価値」など考え、新たな価値創造に繋がります。そして飯山で輝く人々を紹介するホームページ「IIYAMA Good Business.net」も開設。「飯山ではこんなチャレンジができるんだ」「飯山では生き方を自ら選ぶことができるのね」そんな躍動感あふれる人々の物語が紡がれています。ぜひ飯山の最前線に立つ人々の考えに触れてみてください！



地域 × adv.m 桜井肖典さん (一般社団法人リリース共同代表)

「GOOD」という善悪の判断はコミュニティによって違います。だからこそ地域の事業者さん自身が、望む未来の姿を描き、共有し、重なる未来を共創していくことが大切。そして飯山はもちろん、長野、日本、世界を、コミュニティとして捉え、飯山独自の資産に基づくビジネスをつくることで、競争ではなく共感を生み出す経済圏が育ちます。飯山Good Business Meetingを通して、飯山には世界でも稀な四季の深さと、その風土が育てた文化と、文化を担う想いと技術を持った事業者さんがたくさんいることがわかりました。未来も共感する経済圏へ、彼/彼女達と一つひとつ形にしていきたいと思っています。

木曾地域振興局 価値のデザインワークショップ



木曾
Workshop Equipment in KISO 1.0
(https://yoko.be/inf_EjColp/)

長野県信用組合・日本政策金融公庫 創業者セミナー



長野県信用組合、日本政策金融公庫共催の新金融サービス開始記念創業セミナーで、県内の女性起業家の方々と共に秋葉チーフ・キュレーターが登壇の機会を頂きました。

CSI立ち上げ早々の2018年6月、定員を大幅超過の約110名もの方々にCSIの存在を知って頂くことができました。

女性目線をビジネスに取り入れようというセミナー趣旨から、CSIが考える起業における社会性・持続可能性についても意見交換でき、とても良い機会になりました。

このセミナーから、いくつもの取り組みが生まれ、そしてエコシステムが育まれています。

飯山 Good Business Meeting



長野県立大学と連携して起業支援などに積極的に取り組んでいる長野県木曾地域振興局。その主催で2018年9月に行われた「地域おこし×起業研修会」に続く第2弾として、10月、CSIのadv.mの由井真波さんを講師に迎え、「価値のデザイン」ワークショップが開催されました。

木曾地域の木工品が持つ魅力を「価値のデザイン」の視点から見出すためのワークショップで、木祖村、木曾町、上松町から様々な活動をしている方々が参加されました。ワークが3本も含まれているという、もりだくさんな内容でしたが、皆さん最後まで活発に発言されていました。これから木曾の木工を通して新たにどんな価値が見つかり、どんなサービスが創り出されていくのか、参加された皆さんの今後の活躍を楽しみにしています！

参加者の声

「木そのものが育ってきた経緯があって、木を持つと、それまでのストーリーに思いを馳せてしまう」



戸隠中社竹細工生産組合長 井上栄一さん

後継者不足の中、単に技術のみならず、地域と共に文化を後世に残したいとの強い思いから活動を始めました。今回、さらに関わる其々が何をやるか、やりたいかが大切なことを改めて気づくことができ有難うございました。

戸隠地区地域おこし協力隊員 西濱芳子さん

竹細工を始めるまでのバックボーン、職人歴、戸隠の暮らしの中での竹細工との関わり方。その一人一人が感じる“ワクワク”が未来に繋がるという気づきが、皆を繋ぎ戸隠竹細工のRe:スタートを切った瞬間だと感じました。

長野市企画課 白澤哲也さん

今回のご支援を通じ、相談者が“外に答えを求めている姿”から“自分たちで答えを見つけていく姿”への変化を肌で感じることができ、大変貴重な経験をさせていただきました。この経験を今後の仕事に活かします。

400年余の歴史をもつ戸隠竹細工を未来につなぐために、生産組合が長野市の支援を受け2017年度から取り組む戸隠竹細工地域ブランド化推進事業を支援しました。職人育成研修受講の移住者など新しい担い手候補も増えつつある中で、ベテラン職人、レジェンド職人を含めて、どんな戸隠竹細工のある未来を描くのか。多くの議論の先に、戸隠竹細工の未来が見えてきました。



地域 × adv.m
由井真波さん

(有限会社 リンク・コミュニティデザイン研究所代表)

現場を担う職人のかた、傍らで応援する市のかた。そこへ合流し、数ヶ月、ならんで走る機会を得ました。初めての「事業」に小さくなっていったみなさんが、自身の言葉で「叶えたい姿」を熱く、のびのびと語り始めた最終回。ベテランから新人まで全員が「竹細工が好き!」「もっと技を磨きたい!」。戸隠の暮らしに裏打ちされた、晴れ晴れとした笑顔が焼き付いています。



長野県内各地が抱える課題に、具体的な解決策をお持ちのadv.mをお繋ぎしました。アマタホールディングス会長でもある熊野英介さんは発足直後の5月に来県。北信地域の行政・事業者との深い意見交換を実施しました。

また、日本初の母子家庭専門のシェアハウス・ペアレンタルホームを運営している秋山怜史さん(一級建築士事務所秋山立花代表)には、類似の取組みを模索している信濃町の事業者との意見交換を実施頂きました。新しい価値観や視点を長野に吹き込んで頂き、これからの展開が楽しみです。



CSI adv.mの成澤俊輔さん(NPO法人FDA理事長)を講師にお迎えし開催した特別講演会。「働くこと 生きること ~働きづらいの方々の仕事創出イノベーション~」をテーマに、学生や教職員に向けての講演とワークをして頂きました。ご自身の視覚障害が人生にもたらしたものについてお話しいただき、「普通って何?」を深く考えさせられる内容でした。

参加者の声

長野県立大学1年 松本花子さん

お聞きした1つ1つの言葉に多くの刺激を受けました。私とは全く別の視点から見ている成澤さんの言葉から気付かされる事が多く、物事の見方を変えることの重要性を実感しました。特に、「コンプレックスがあるのは、なりたい自分があるからであり、良いことである」という言葉が大変印象に残っています。また、成澤さんから見た最新の幼児教育の現場について聞くこともでき、授業だけでは学ぶことのできない部分まで知ることができました。改めて自分の進もうとしている道を見直すきっかけにもなり、大変貴重な機会となりました。



地域 × adv.m 渡辺さやかさん



2018年7月の勝手勉強会では、CSIのadv.mである渡辺さやかさん(一般社団法人re:terra代表理事)にご講演いただきました。渡辺さんは長野市のご出身で、東日本大震災の後、岩手県の被災地を拠点に地元の自然資源を活用した事業を起こしたり、東南アジアや中東などで企業が社会課題に向き合いながら事業を起こす支援などの活動をされており、「Forbes Japan」(2018年9月号)では「地球で輝く女性100人」に選ばれています。自分と社会との関係性を見つめること、自分自身を見つめ直すことが、ソーシャル・イノベーションの第一歩だとする渡辺さんは、幼い頃にネパールを旅して感じた原体験や、学生時代にカンボジアでボランティア活動した際の忘れられない経験、その後、会社員を経て起業し現在に至るまでを、熱を込めて話して下さいました。エネルギー溢れる渡辺さんのお話は、参加した学生にとって相当な刺激となったようです。

県内各地からたくさんのご相談をいただいています。
 県内各地でさまざまなプロジェクトが同時進行中!!

長野市エリア

長野市との包括連携協定締結/シニア向け講座の運営検討会議への参加/空き家リノベーションに関する連携相談/起業家との意見交換/教育機関との連携相談/意見交換/市人口増進施策に関する相談/金融機関との連携相談/保険会社との連携相談/福利厚生サービス事業者との相談/長野信用金庫「しんみせ」応援プロジェクト審査委員/市商工振興・雇用促進審議会への参加/市総合計画・総合戦略策定に関する相談/市役所改築建築師/長野県信用組合・日本政策金融公庫 創業者セミナー講師/ハウスメーカーとの意見交換/地域課題についての意見交換/交通事業者との連携相談/起業家コミュニティ運営者との意見交換/地域おこし協力隊スキルアップ研修講師/通信制高校のブランディングに向けた支援/戸籍竹組地域ブランド化推進事業支援/県内中小企業家のシンポジウムへの参加/食育に関する意見交換/公共施設の管理運営に関する意見交換/adv.m 熊野英介さんと地域との意見交換/金融機関のワークショップ講師/シニア世代向けフィットネス施設における地域連携についての相談・サポート/女性起業家との意見交換/環境配慮型住宅の建設相談/学生起業家育成に関する意見交換/地域課題についての連携相談

ここからエシカルMAPの取材(10事業者)/みんなで支える森林づくり県民会議への参加/信州創業支援プラットフォームへの参加/関東経済産業局・長野県の連携による地域SDGsコンソーシアムへの参加/県立大、日本ユニシスの包括連携協定の締結に向けた協議/高産業労働施策に関する意見交換/県産イノベーション推進本部への参加/経済団体との意見交換/県起業家に関する相談対応/県次世代子ども政策に関する連携相談/県人権・男女共同参画施策に関する連携相談/県働き方関連施策に関する連携相談/県創業・サービス産業振興施策に関する相談対応/県職員キャリア開発センター主催研修の運営(地域に飛び出す職員支援研修)/県立長野図書館ワークショップ参加

エネルギーに関する社会実験についての相談/adv.m成瀬使輔さんによる特別講演会/学外での学びに関する連携相談

コワーキングスペースとの意見交換/CSIオープニングイベント/学生起業相談/県観光関連団体からの相談/市みどりの移動市長官開催/アパレル事業者との連携相談/障がい者就労支援施設についての相談対応/監査法人の産産支援に関する相談対応/地方創生関連事業での連携相談/NPO活動支援団体との意見交換/高齢者虐待予防のためのモバイルサービスについての相談対応/音声テキスト化事業についての相談/就労支援・キャリアデザイン企業と学生の連携相談/信州ソーシャル・イノベーション/保健医療福祉専門職向け起業塾/開業保健師のつどい/adv.m渡邊さやかさん講演会/コラボ公開講座(全10回)/食関連企業との連携相談/文化施策に関する意見交換

小谷村エリア

地域連携についての相談
 移住支援事業者との意見交換

白馬村エリア

シェアスペース運営者との意見交換
 地域連携についての相談

松本市エリア

ここからエシカルMAPの取材(10事業者)

箕輪町エリア

箕輪町創業・経営革新セミナー講師

松川町エリア

公共施設新地の視察

塩尻市エリア

シビック・イノベーション拠点との意見交換
 地域課題についての情報収集

伊那市エリア

事業承継に関する政策研究についての
 相談対応

下諏訪町エリア

地域おこし協力隊活動報告会への参加

木曾町エリア

地域交通に関する意見交換/価値のデザインワークショップ/地域おこし協力隊からの企画相談/地域の支援サポート体制/地域を含めたエコシステム構築への相談/コワーキングスペースとの意見交換

王滝村エリア

創業についての相談対応

豊丘村エリア

地域おこし協力隊との意見交換

上松町エリア

地域おこし協力隊からの事業相談

飯田市エリア

女性起業家からの相談対応/地域における連携相談対応/キラ☆ジョ シンポジウム「金融施策に関する意見交換/新規事業創出支援に関する意見交換/女性の起業に向けた相談・支援/観光ビジネスに関する意見交換/地域課題に関する視察/子育てママの社会参加に関する情報収集/金融機関との意見交換/テレワーク事業についての相談/ここからエシカルMAPの取材(10事業者)

県外

企業と大学の連携に関する相談(さいたま市)
 社会課題解決に取り組む企業との連携相談(東京都)
 シェアスペースとの意見交換(東京都)
 ビル管理事業者団体研修講師(東京都)
 女性起業家との意見交換(京都市)
 京都市ソーシャルイノベーション研究所との意見交換(京都市)
 介護事業者からの相談対応(愛知県)
 女性起業家の県内展開に関する相談(福岡県)

※相談主体別により、分類・整理したものではありません。
 ※主なもののみ、掲載しています。

飯山市エリア

飯山市との包括連携協定締結/地域米による新商品開発に関する事業相談対応/いいやま女性起業塾/飯山Good Business Meeting/地域の実情についてのヒアリング

小布施町エリア

教育関連事業者との意見交換/センサー技術とウーキングバイクを活用した「地域×企業」の協働プロジェクトの支援/「食育プロジェクト」の調査検討/IT技術を活用した「地域×企業」の調査研究/健康福祉領域における協働の取り組みの支援

中野市エリア

地域×学生 地域の価値発見フィールドワークの実施/市職員の人事交流/中野市との包括連携協定締結に向けた協議/起業支援に関する連携相談/教育機関との連携相談

木島平村エリア

地域課題の解決に取り組むNPO事業者との意見交換

須坂市エリア

地域課題についての意見交換
 ままづくりへの学生参加に関する連携相談

飯綱町エリア

地域課題に取り組む事業者と
 adv.m 秋山裕史さんの意見交換・視察

信濃町エリア

創業についての相談対応
 地域課題についての意見交換

千曲市エリア

千曲市との包括連携協定
 ものづくり企業と地域の連携相談対応

上田市エリア

ここからエシカルMAPの取材(10事業者)

東御市エリア

地域資源の活用に関する意見交換

小諸市エリア

街並みの保存についての意見交換

立科町エリア

町まづくり施策に関する相談

佐久市エリア

空き店舗活用見学会の支援/地域おこし協力隊との意見交換/地域活性化イベントへの参加/コワーキングスペース運営事業者との意見交換/地域のアートプロジェクトへの参加/食品加工事業者との意見交換/adv.m 由井真波さんによる地域についての視察・意見交換/食品廃棄物の利用循環についての意見交換

佐久穂町エリア

古民家シェアハウスとの意見交換
 中山間地域での学校開校に関する情報収集

大室センター長講演実績(延べ11回、2259人参加)

- ・「CSIの狙い」(IT企業@東京都)
- ・「ソーシャルイノベーション〜地域を元気にするもう一つの方法」(長野市役所職員研修@長野市)
- ・「CSIの狙い」(IT企業@大阪府)
- ・「ソーシャルイノベーションの視点から産業教育を考える〜最先端を行く企業の動向と求める人材」(長野県総合教育研究センター@塩尻市)
- ・「CSIの狙い」(IT企業@愛知県)
- ・「今求められる企業像と社会的課題の解決」(専門職向け起業塾@長野市)
- ・「ソーシャルイノベーション創出センターがめざすもの」(CSIオープニングイベント@長野市)
- ・「今求められる企業像と社会的課題の解決」(信州ソーシャルイノベーション塾@長野市)
- ・「今求められる企業像とCSI」(金融機関@小布施町)
- ・「欲しい未来を紡ぎだすソーシャルイノベーション」(専門職@長野市)
- ・「ソーシャルイノベーション×エシカル消費」(長野県版エシカル消費キックオフフォーラム@松本市)

メディア掲載実績(主なもの)

- 2018.04.06 日本経済新聞「県立大、創業支援手厚く」
- 2018.06.04 毎日新聞「世界を基準に企業育てる」
- 2018.06.05 信濃毎日新聞「創業セミナーで女性経営者討論」
- 2018.06.06 長野日報「女性起業家に心奪われ」
- 2018.06.07 日本経済新聞「ワクワクしない仕事はしない」
- 2018.06.09 長野市民新聞「女性の起業を後押し」
- 2018.06.29 日本経済新聞「保健医療福祉の起業塾」
- 2018.07.06 信濃毎日新聞「県立大運営法人と長野市が連携協定」
- 2018.07.11 日本経済新聞「地域振興や人材育成連携」

2018.07.11	信濃毎日新聞「長野市と県立大運営法人が連携協定」
2018.07.14	信濃毎日新聞「県立大と日銀 連携探る懇談」
2018.07.15	長野経済新聞「長野市と県立大運営法人が包括連携協定」
2018.08.24	北信ローカル「官学が起業と雇用創出支援」
2018.09.12	日本経済新聞「地域振興などで協定」
2018.09.12	信濃毎日新聞「県立大と飯山市が連携協定」
2018.09.21	北信ローカル「飯山市 県立大と連携」
2018.09.22	北信濃新聞「資源はいっぱいある。民間に太陽を」
2018.10.02	信濃毎日新聞「泰山祭の1年」
2018.10.04	信濃毎日新聞「起業家「伴走者」 県立大が養成塾」
2018.10.05	日本経済新聞「社会の課題解決・人材育成」
2018.10.06	日本経済新聞「県立大・千曲市が協定」
2018.10.06	日本経済新聞「生活・観光に活用探る」
2018.11.27	信濃毎日新聞「越山で起業塾 女性の挑戦後押し」
2018.12.08	日本経済新聞「県内活性化 糧まさに汗」
2018.12.22	信濃毎日新聞「見つけよう新しい私」
2018.12.27	北信ローカル「いいやま女性起業塾」
2019.01.01	北信濃新聞「『好き』を仕事にする発想を」
2019.01.12	信越放送「『エシカル消費』普及めざしイベント」
2019.02.02	日本経済新聞「地域の課題解決へ協力」
2019.02.06	日本経済新聞「地域課題解決で協定締結」
2019.02.06	信濃毎日新聞「県立大、日本ユニシス、県が連携協定」

CSIへのご相談件数
 2019.01.31現在 **429** 件

2018 地域コーディネーター活動紹介

Takuchi Toru

瀧内 貫

北信・中信担当
株式会社コト社 代表取締役
大阪生まれ長野育ち



長野県内各地（たまに全国各地）を回り、ディレクション、コーディネートに携わるなかで、北中信担当として活動をしています。長野、北信、松本、北アルプス、木曽地域振興局と長野県の大まか、地域性を実感しながら、6市7町6村の地方公共団体や地域活動をするNPO法人等とご相談や情報交換の会合を持ちました。

一緒に、課題意識は大小あれど、参考になる解決方法が少ないなかで、方法論だけでなく方向性を導き出すことに苦労するだけでなく、立場の違う人同士のコミュニケーションなど、苦慮されている点が多くあり、地域コーディネーターの設置理由を実感しました。

私は元々、地域課題を整理、解決するための活動に参画、コミュニティデザインに携わっています。CSI業務、本業問わず、長野県内外を動き回る日々ですが、地域づくりにおいてステップのようなものがあると感じています。ある地域で起こっていた課題は、少しステップが手前の地域も通る。追いかける地域は、先進地域の課題解決手法についての情報を得て、一足飛びに、それどころが未然に防ぐような解決ができるはずですが、この点においても地域コーディネーターは橋渡しができるはずですが。

今年度は飯山市での「グッドビジネス」としての活動、長野市での介護・福祉事業者への活動支援、他高等教育機関との連携についての意見交換、担当地域内各地での課題解決へ向けた相談対応などに関わりました。CSIだけでなく、長野県立大学の持つリソースは、地域づくりや起業、行政への支援だけでなく、義務教育課程や生涯教育等を含む教育、子育て育児、介護福祉、地域医療などの課題解決にも有益であると確信しています。来年度以降もさらに支援を拡大していくために尽力していきたいと考えています。



佐久市で地域おこし協力隊として活動した経験を活かし、CSIの地域コーディネーターをつとめさせていただきました。東信エリアの特徴としてまずあげられるのは、地理的に関東圏・都心との行き来がしやすいという点です。在来線・新幹線・高速バスなどの交通機関が充実しているため、スケジュールや予算にあわせた移動手段が選択可能です。そんな理由もあり、都会からの移住者や、複数拠点で仕事をされている方の動きは非常に活発なエリアとなっています。

近年では、コワーキングスペースやゲストハウスなど、コミュニティを生み出して交流の循環を促す拠点が次々にオープン。地域のナカとソトの人材をつなぐ重要な役割を果たしています。仕事の面でもプライベートの面でも充実した暮らしを送っている方が数多く活躍しており、都会に勝るとも劣らない多彩なロールモデルを観察することができます。その多くが、複数の肩書きや生業を持ちながら盛んに情報発信を行い、暮らしをデザインすることを楽しんでいます。私自身も東京から移住し、佐久市を拠点に幸福度高く生活しているひとりです。東信の主たる産業は、日本トップクラスの日照時間と昼夜の寒暖差を活用した農業ですが、人々がもつ未来志向のアイデアや、多動力のエネルギーが重なり合い、さまざまな業種において可能性に満ちたエリアとなっています。

CSI地域コーディネーターとしては、人と人をつなげること、新たなプロジェクトに自ら関わることを進めてきました。夏と秋にはCSIと地域をつなぐ第一歩として、東信で暮らすフリーランサーや個人事業主を中心に、デザイナー、農家、料理人、アーティスト、クラフト作家、地域おこし協力隊、起業準備者、主婦など、多種多様な立場の方々との談話の場を設定。それぞれの想いや「この地ではたらく上での課題」を掘り起こしました。今後も自ら地域プレイヤーのひとりとして、東信エリアの活性につとめながら、「本当の豊かさとは」というテーマについて真摯に向き合っていきたいと考えています。

Ishida Ryo

石田 諒

東信担当
佐久市地域おこし協力隊・第1期生
ミリグラム株式会社 代表取締役社長
東京生まれ



私は、2013年に長野県に拠点を移し、小布施町などの県内自治体を拠点に、地域、企業、大学、住民など様々なアクターを巻き込んだ協働事業のコーディネートを生業にしてきました。CSIでは、これまでの活動で得た知見を生かしながらも、CSIの設立によって新たに生まれた多様な企業や人材とのネットワークを地域につなげ、県内自治体における価値創造に取り組んでいます。

今年度は、小布施町を主なフィールドに、日本ユニシスやオムロンなどの企業とともに、様々な視点から地域でのヒアリングや地域課題解決のための新規事業開発ワークショップを複数回開催しました。現場の声を大切にしながら、様々なステークホルダーが同じ場を共有し率直に意見交換し合う中で、地域×企業での具体的で面白い事業アイデアが複数生まれています。

また、アート思考など新たなイノベーションを生み出す思考法を教育分野に活かすことを目指して、この分野に取り組む事業者と長野県教育委員会をつなぐなど、分野を絞った取り組みにもチャレンジしています。次年度は、今年蒔いた様々な事業の種を一つ一つ開花させ、地域の新しい活力を生み出していきたいと思えます。

<オムロン×片山工業×小布施の取り組み>

片山工業株式会社が開発した「ウォーキングバイシクル」とオムロンが持つセンシング技術などを掛け算して、地域や社会の課題解決につながる新規事業を、小布施町や長野県内の自治体を実証現場として実現するために、2018年10月以降複数回のワークショップを実施。現在、幾つかの事業案が具体化し、2019年度以降の実証事業に向けて準備を進めています。

Osiya Toru 大宮 透

北信・中信担当
行政コンサルタント
共創コーディネーター
山形県生まれ・群馬県高崎市出身



Morimoto Hitomi

森本 ひとみ

南信担当
森本ひとみ税理士事務所 代表
一般社団法人South-Heart 代表理事
一般社団法人レキップ飯田 理事



“キラ☆ジョ・エシカル そして フランス”

長野県立大学協力のもと、CSIの秋葉チーフ・キュレーターの「起業の道にイノベーションを」と題して、2018年11月に飯田市にて「キラ☆ジョ シンポジウム」が開催されました。100名近い方にご参加頂き、長野県副知事中山様のご講演、南信州地域で起業されている方とのパネルディスカッションそして「夢の実現のために今自分ができること」についての参加者同士の意見交換などが行われました。参加された方の熱量が高いシンポジウムとなり、この日をきっかけにCSIに関心を持つ方が増え、地域コーディネーターへのお声掛けも増えることとなりました。

また、長野県立大学の学生のエシカル消費マップ作成プロジェクトに関わらせて頂く機会があり、長野県版「エシカル消費キックオフフォーラム」へ参加し、このことがきっかけで来年度は南信州地域を中心に「エシカル推進」のためのプロジェクトが始まります。この活動は行政からの注目も高く、長野県全県に普及するためのモデルになるような予感がしています。

そして「なぜ フランスなのか？」。

それは、飯田市がフランスのシャルルヴィル・メジール市との友好30周年を迎え、南信州地域の文化伝統を市民レベルの交流でフランスへ伝えようとする動きがあります。過去にはフランスの学生向けの2泊3日のサマースクールを開催し、来年度はサマースクールの開催とインターンシップ受け入れのために動きはじめ、すでにフランスとの国際交流がはじまっています。

来年度もさらなるワクワクを地域コーディネーターとしてつなげていきます。





人や地域、社会、環境に配慮した消費行動を指す「エシカル消費」。これに健康長寿県である長野県独自の「健康」もその内容として加えたものが「長野県版エシカル消費」です。この普及啓発に次代を担う若者たちの感性は欠かせない、との思いから始まった「ここからエシカルMAP（『ここカルMAP』）」づくり。本学学生10名が参加し、県内4エリア（長野、松本、上田、飯田）の計40事業者を取材しました。

取材先によっては2時間近くお話しいただいた思いやこだわり。それを約300文字に凝縮した『ここカルMAP』は、1月に開催された「長野県版エシカル消費キックオフフォーラム」で発表されました。このフォーラムでは大室センター長がエシカル消費の意義を「消費は皆さんの投票行動。地球を良くする力がある。」と伝えました。皆さんも『ここカルMAP』を片手に長野県の魅力的なエシカル事業者を訪問してみたいかがでしょうか。

長野県くらし安全・消費生活課 井上健志さん

まだまだ知られていない『長野県版エシカル消費』ですが、身近にある「エシカル」に気が付いてもらいたいとの思いで『ここカルMAP』づくりに携わってきました。各チームと一緒に考え、取材に同行することを続けていくうち、思いもかけないお店が取材先に挙がって来ることもありました。学生の感性・視点には驚かされ、私自身としての新たな気づきにつながりました。

『ここカルMAP』には非常に多彩で魅力あるエシカルなお店が掲載されていますので、「あのお店もエシカルじゃない?」というように、身近な「エシカル」に気づききっかけになれば幸いです。

長野県立大学1年 藤井絵莉子さん

私が取材の中で気づいたことは、どの事業者さんも心から楽しそうに生き生きと仕事をしていらっしゃるということでした。「本気で取り組みたい」「自分がやらなければ誰がやる」そんな強い信念をもつ姿勢がとてもまぶしく見えました。

私は自分が進みたい道がわからず、不安と焦りにかられることがしばしばあります。今回の取材でほとんどの事業者さんが同じような葛藤と向き合い、自分の道を見つけていった、とおっしゃっていました。葛藤を乗り越えた先に自分の道が見つかる・・・とても貴重な気づきをいただくことができ、これからも自分の視野を広げ続けたいと思っています。

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、グローバルな社会の価値観やビジネス・ルールの大転換であり、中小企業にとってこれから欠かすことのできない戦略ツールとなるものです。

しかし、中小企業を対象としたSDGsの認知度調査によると、「まったく知らない」と回答した企業が84.2%にのぼり、ビジネスの現場からはCSIの地域コーディネーターに対し「SDGsがよく分からないので教えて欲しい」との声が届いています。

こうした中、2018年5月に関東経済産業局と長野県との連携による地域SDGsコンソーシアム (NAGANO×KANTO地域SDGsコンソーシアム) が立ち上がり、産学官金の地域ステークホルダーが一堂に会して、SDGsを活用した地域中小企業の企業価値向上や競争力強化に向けた効果的な手法の検討等を行ってきました。長野県立大学も大学として唯一メンバーに加わり、積極的に意見や提案を重ねてきました。

そして本年2月には、その集大成として「長野県SDGs推進企業登録制度」が公表されました。これにより、長野県においては、全国の先陣を切って平成31年度からSDGsに取り組む事業者を応援する制度が整いました。

CSIでは、SDGsを地域中小企業の皆様に浸透させ、その経営に埋め込むための具体的支援を加速します。



地域 × adv.m 前田展広さん

「ここからエシカルMAP (ここカルMAP)」作成にあたって参考にしたのは「京都市ソーシャルプロダクトMAP」。そのプロジェクトマネージャーにあられたのがCSI adv.mの前田展広さん(前田展広事務所)です。前田さんには「ここカルMAP」作成のキックオフセミナーにゲストとして長野市までお越しいただきました。MAPづくりにあたって「ターゲットをあえて絞らない。」「MAPはあくまでツール。取材を通じたコミュニティづくりを目的にしたほうが良い。」といった実践者としての生の声は、目から鱗のお話ばかり。学生たちにとってMAPづくりの新たな意味づけにつながり、不安払しょくにもなったようです。



CSIの入口にSDGsロゴ及びアイコンを掲示し、学生たちが気付いたSDGsに関する身近な取り組みを貼り付けています。本年4月からの登録制度の開始に先立ち、3月にはCSI主催のSDGsセミナーを開催、また、平成31年度には県とコラボしたSDGs普及のための取組も予定されています。



ナガノ ミライ カイギ

CSIでは、多様な人々が集い学びあう場づくりにも積極的に取り組んでいます。2018年度は「長野ミライ会議」や長野県と協働し、長野市門前エリアで活躍する若手社会人をはじめ、県内外からも多様なゲストをお招きした「コラボ公開講座」を計10回開催しました。毎回、高校生から市民、社会人、県立大学の学生に至るまで幅広い参加者が集い、普段の職場や学校では得られない学びや交流の機会を得ています。



第3回講師
ゆめサボママ@ながの共同代表
森田舞さん

建ったばかりの建物「なかなか入る機会がないところに入れる！」ゲストとしてお声掛け頂いた時の感想です。みなさんにお話を聞いていただき、その後は一参加者として参加すること数回。なかなかお話を聞く機会がない方々から深いお話を聞かせていただきました。寮の自室から0分の長野県立大学生も受講していたり、お仕事帰りや遠方から参加の方もいました。「なかなか入る機会のない場所」は、いつしか私にとって「新しい出会いと発見の場」となっていました。早いうちにゲストに呼ばれて、ミライ会議を知ることができてラッキーでした。



<コラボ公開講座 開催実績>

-
- 2018.06.25 **いま、ぼくらがナガノで出来ること**
ツナグノ 波多腰 遥さん
-
- 2018.07.14 **地方にいま必要な「かわいい」とは**
～地域の魅力づくりの処方箋～
株式会社キラFACTORY 代表 正能 茉優さん
-
- 2018.07.25 **女性の働き方のミライ**
～だれもが「やりたいことをやる」ために、みんなで考えたいこと～
ゆめサボママ@ながの 共同代表 森田 舞さん 大口 知子さん
-
- 2018.10.13 **門前ゲストハウス宿主と考える**
「やりたい仕事」のつくり方
1156backpackers 宿主 飯室 織絵さん
-
- 2018.10.09 **働き方改革最前線**
～総務省若手職員が考えた行政のこれからの働き方とは？～
鎌倉市 橋本 怜子さん 総務省 田中佑典さん
-
- 2018.10.13 **まちを魅力的にする不動産屋さんを考える**
人が集まる場のつくりかた
株式会社MYROOM 代表 倉石 智典さん
-
- 2018.11.21 **若者が関わりたくなる長野をつくるには？**
やっぴこ!シンカイ 店長 ナカノヒトミさん
-
- 2018.12.19 **ミライの教室を想像しよう!**
～「ものづくり」がつくる新しい教育のあり方とは？
信州大学学術研究院教育学系 教授 村松 浩幸さん
-
- 2019.01.16 **ビジネスを通じて地域に関わり続けるためには**
株式会社カンパニー代表 児玉 光史さん
-
- 2019.01.29 **面白地域論～いま、地域でしかける理由とは？**
面白法人カヤック代表 柳澤大輔さん (株)Huuuu代表 徳谷柿次郎さん

組織概要

名 称 公立大学法人長野県立大学ソーシャル・イノベーション創出センター
(Center for Social Innovation Initiatives, CSI)

設 立 2018 (平成30) 年4月1日

所在地 長野県長野市西後町614-1 (長野県立大学後町キャンパス)

2018年度 STAFF 大室 悦賀 センター長/公立大学法人長野県立大学グローバルマネジメント学部教授・起(企)業家コース長

秋葉 芳江 チーフ・キュレーター/Office SPES 代表

土屋 征寛 課長補佐

川地 尚武

江口 亜希

柳澤 陽介 (中野市からの研修派遣)

制作

金井真一 (Studio FRAME) / 杉原恵 (my turn) / 瀧内貫 (株式会社コト社) / 忠地七緒 / 羽入田郁未 (株式会社コト社)

 <http://www.u-nagano.ac.jp/csi/>

 <https://www.facebook.com/CSI.nagano/>

 https://twitter.com/CSI_Nagano

 **長野県立大学**
THE UNIVERSITY OF NAGANO

Facebookもチェック 



お問い合わせ

Email csi@u-nagano.ac.jp

TEL 026-262-1725 **FAX** 026-262-1726

発行日 2019年3月26日

※本誌記載内容の無断転載はご遠慮ください。